

科目担当者氏名 もろはし たいき 諸橋 泰樹 印		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 しおむら きみひろ 潮村 公弘 印		科目設置機関名 フェリス女学院大学文学部	
授業科目名 コミュニケーション専門ゼミⅡA	科目認定番号 FERa-110601-2	受講者数 11	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：調査計画の立案から、実査、入力、集計、分析、分析結果の解釈にいたるまで、担当教員の指導と助言のもと、学生が自発的に行った。Excelを用いた単純集計、クロス集計、特に尺度を点数化してのクロス集計も、苦労しながらこなした。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：大学生の飲酒に関する意識調査、態度調査、パーソナリティ調査。
2. 調査の内容/概要：大学生（女子・男子）の飲酒行動は積極的に行われており、性差がみられるほか、パーソナリティによる違いもみられた。
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：フェリス女学院大学において女子の学生に170票、中央大学において男子の学生に170票、それぞれ授業時の教室にて悉皆配布および学内においてランダム配布。
4. 主な調査項目：デモグラフィック属性、飲酒回数、飲酒場所、飲酒同伴者、社会性・コーピング・恋愛などに関する心理尺度。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：質問紙による自記式調査。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査の実施時期：2011年10月。調査地：横浜・泉区のフェリス女学院大学および東京・八王子の中央大学。調査員の数：11名。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：配布数はフェリス女学院大学、中央大学ともにそれぞれ170枚、有効回答数は共に132票数。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：単純集計、尺度の点数化、属性別クロス集計、尺度点数別クロス集計
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：酒の嗜好性、性別、学年、パーソナリティなどによって飲酒意識、飲酒行動が異なることが明らかになった。
10. 報告書刊行の予定と概要：なし。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。